



第1章

第1章 第四期基本構想・長期計画の前提

1 市勢と将来展望

(1) 市勢

本市は、副都心新宿から電車で20分、距離にして約12kmの至近に位置するとともに、東京都特別区の西部に接し、総人口約400万人を擁する多摩地域との結節点にある。市域は東西6.4km、南北3.1km、地形は総体的に平坦であり、面積10.73平方km、人口は外国人登録数を含め約13万4300人（平成16年6月1日現在）、14歳以下の年少人口は10.7%、生産年齢人口（15～64歳）は71.3%、老年人口は18.0%に達している。

市民の担税力は比較的大きく、歳入（平成15年

度決算586億円）のほぼ35%が市民税、22%が固定資産税によるものである。また、給与所得者の割合が多い。

市の南部をJR中央線が東西に貫通しており、東から順に吉祥寺、三鷹、武蔵境の三つの駅がある。吉祥寺駅には京王井の頭線が、武蔵境駅には西武多摩川線が乗り入れている。駅勢圏ごとには、都内有数の繁華街を有する吉祥寺圏、大型の文化・スポーツ施設や市役所をはじめとする行政機関や先端企業が集積する中央圏、多くの大学への玄関口であることから留学生も多く、国際色豊かな色彩をもち、環境に恵まれた武蔵境圏といった特徴がある。



(2) 将来展望

本計画は、平成26年（2014年）までを計画期間としているが、日本の総人口は、2006年には人口静止を迎え、それ以降は「人口減少」という、近年我が国が経験したことのない構造変化に突入するとともに、急激な少子高齢化が予測されている。そして、国や都が進めている行財政改革による歳入の減少などの影響も避けては通れない。また、今後の10年の間には現時点で予想できない社会情勢の変化も予想される。

このように現時点での将来の見通しが不確実な状況の中で、情勢変化に柔軟に対応できる持続可能な市政運営を目指して長期的な計画策定を行った。



市制施行55周年記念シンポジウム「人口減少時代の豊かさとは？幸福とは？」



吉祥寺



千川上水



NTT武蔵野研究開発センタ

1) まちの性格

本市は、緑豊かで閑静な住宅地が広がる一方、都内有数の商業地や企業の先端的研究施設、多くの大学などを有し、狭い市域ながら、住む人にとっても、また訪れる人にとっても魅力のある「生活核都市」として発展してきた。また、吉祥寺、三鷹、武蔵境の各駅を中心として、地域ごとに特色のあるまちが形成されている。まちの利便性や生活環境の面からも、成熟した都市として高い評価を得ているが、再開発が進む周辺地区の商業圏との競争激化や、少子高齢化の進行などの要因がある一方、市政においては、まちの安全確保、環境問題への対応など様々な課題がある。

2) 人口構成

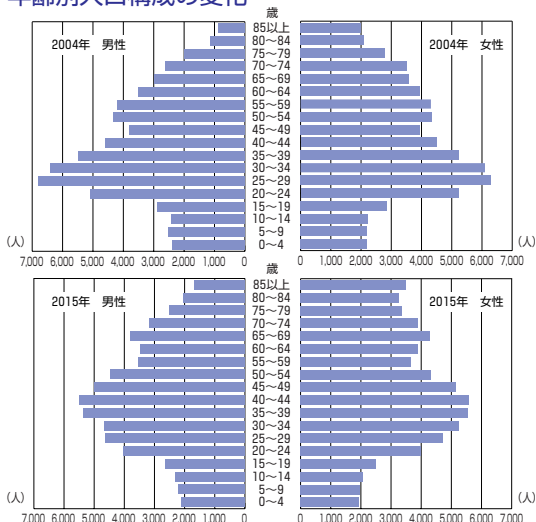
住民基本台帳人口に基づき、本市で実施した将来人口推計によると、平成20年（2008年）に本市の人口は約13万3千人でピークを迎え、以降、減少に転じると予測されている。

また、年齢別の人口推計結果では、0～14歳人口、15～64歳人口ともに減少する中、65歳以上の人口は増加し、本計画期間後の平成27年（2015年）には、人口13万2千人のうち0～14歳の年少人口が9.6%と10%を割り、65歳以上の老年人口が23.8%になると予測される。

つまり本市では、日本全体の人口変化の動きからはやや遅れるが、本計画期間中に緩やかではあるが初めて本格的な人口減少期に入り、少子高齢化の傾向がますます進む。

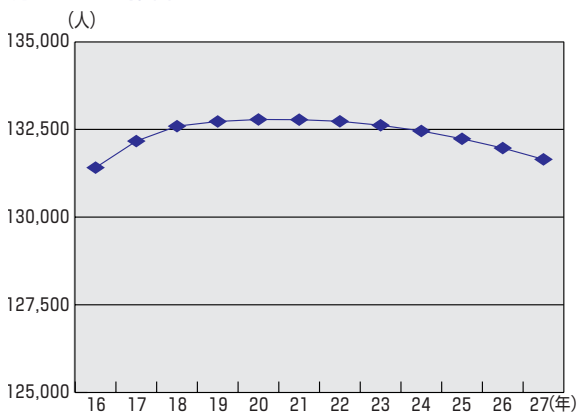
一方、世帯数は引き続き増え続け、特に高齢者単身世帯数の伸びが大きいと予測される。

年齢別人口構成の変化



資料：武蔵野市人口推計結果報告書
(平成15年11月)

将来の人口推計



資料：武蔵野市人口推計結果報告書
(平成15年11月)

家族類型別世帯数の将来推計

単位：世帯

	2005年 (H17)	2010年 (H22)	2015年 (H27)
総世帯数	66,441	68,032	69,083
核家族	29,699	29,798	29,706
夫婦のみ	12,830	13,171	13,368
夫婦と子ども	15,473	15,137	14,764
片親と子ども	1,396	1,490	1,574
その他の親族世帯	3,189	2,925	2,694
非親族世帯	266	340	345
単身世帯	33,287	34,969	36,338
高齢者単身世帯数	5,647	6,599	7,599

資料：武蔵野市人口推計結果報告書
(平成15年11月)

年齢3区分別人口の将来推計

単位：人、%

	2005年 (H17)	2010年 (H22)	2015年 (H27)
0～14歳	14,104	13,527	12,629
割合	10.7	10.2	9.6
15～64歳	93,983	91,444	87,699
割合	71.1	68.9	66.6
65歳以上	24,080	27,760	31,318
割合	18.2	20.9	23.8
合計	132,167	132,731	131,646

資料：武蔵野市人口推計結果報告書
(平成15年11月)

3) 制度改革の動向

わが国の明治維新・戦後改革に次ぐ「第三の改革」といわれる地方分権改革の第一歩が平成12年の地方分権推進一括法の施行により始まった。最近では市町村合併に伴う地域自治区制度が設けられるとともに、地方自治の枠組みをめぐる道州制及び大都市制度に関する議論や地方行財政改革としての三位一体の改革などが進められている。三位一体の改革は、地方自治体にとって制約の大きい国庫補助負担金を削減する一方、自治体の自主財源となる税源を移譲する方向性が明確になりつつある。さらに憲法に基づく生活保護制度や義務教育制度など、戦後のわが国における基本的な制度に関する改革が行われようとしている。計画策定にあたっては計画期間中におけるこれらの動向を充分に見極めていくことが必要である。

4) 財政見通し

歳入については、国の三位一体の改革及び都の第二次財政再建推進プランにより国や都の補助金等が削減され、市の財政への影響も大きいと予想

されている。また、市税の伸びは経済状況の影響が大きい、景気の先行き不透明な状態で大きな伸びは期待できず、厳しい状況が続くと考えるべきであろう。

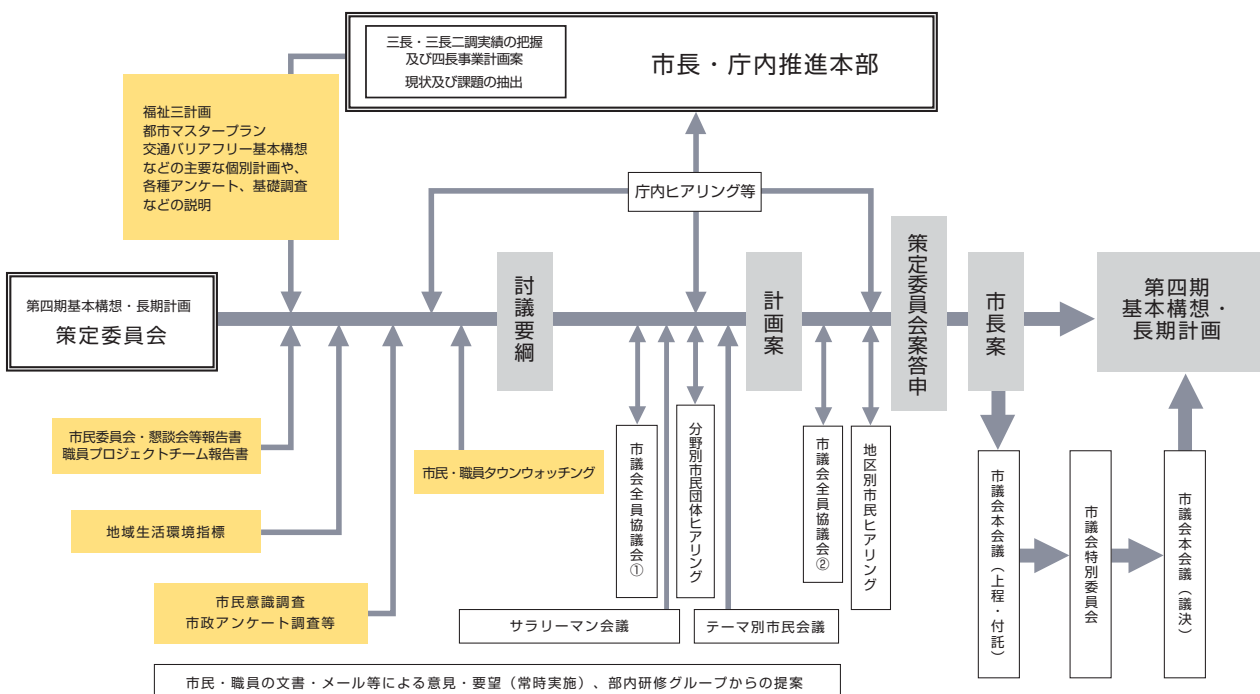
歳出については、扶助費や委託料などの物件費をはじめとする経常的経費の増加が見込まれる中、農水省食糧倉庫跡地新公共施設の建設などの投資的経費や新規事業へ限られた財源を重点的に配分することが重要となる。

2 長期計画策定方式

第三期長期計画及び調整計画においては、分野ごとにいくつかの委員会を設置して、専門的な議論を深め、これらの提言等を基に策定を進めてきた。

本計画の策定においては、武蔵野方式といわれる市民参加による策定方式を引き続き踏襲するとともに、庁内の各部門において分野別の計画（個別計画）策定が体系的に進められてきていることから、これらの個別計画を基本に据えて策定を進

第四期基本構想・長期計画の策定手順





めてきた。また、今回は、現在市政の課題となっている個別具体的なテーマについて、策定委員会発足と同時に市がテーマ別に市民会議を設置した。そして、これらの会議で具体的な方策や将来見通しについて議論された内容を反映させた。

3 まちづくりの現状と課題、新たな視点

安全・安心に対するニーズの高まり、高度情報化の進展、市民活動の活発化、環境問題の深刻化、また、近代以降わが国がかかって経験したことのない「人口減少」問題や地方行財政制度の改革・三位一体の改革が国によって進められるなど、市政を取り巻く状況が大きく変化している中で、今後のまちづくりの課題について、長期的な視点で検討を行った。

○主な課題

- 1 人的サービスの質と倫理性
- 2 市民パートナーシップの意義
- 3 健全な財政運営
- 4 安全安心のまちづくり
- 5 コミュニティと都市間交流
- 6 高齢者・障害者への支援

- 7 家族と教育
- 8 家族に対する男女の責任
- 9 環境形成とまちづくり

4 策定期間とローリングスケジュール

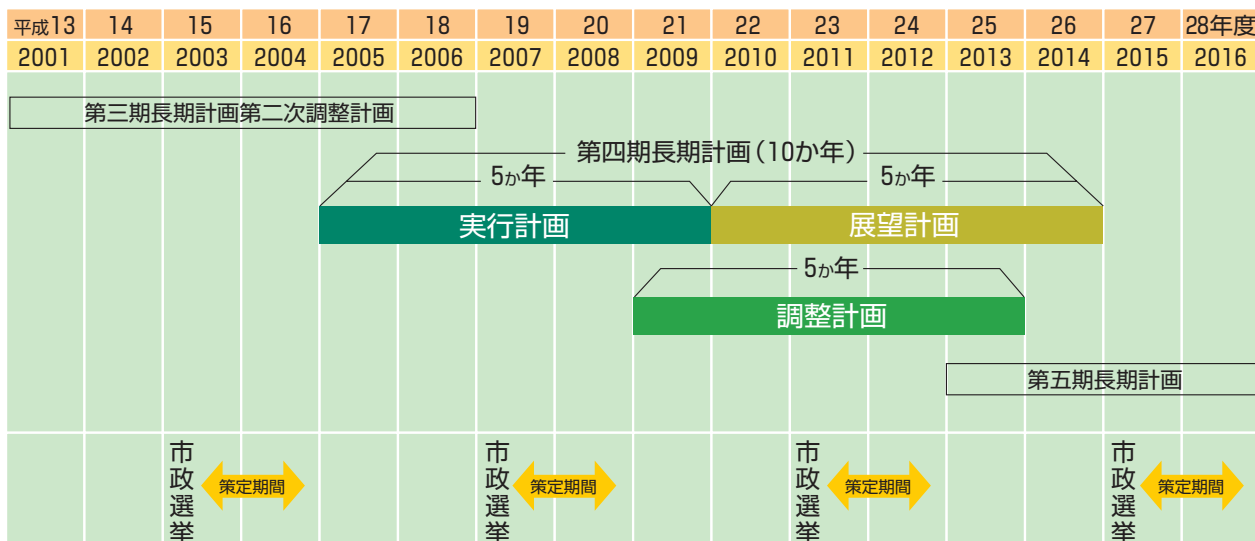
(1) 策定期間

近年の市政を取り巻く環境変化の速度は目まぐるしく、いままでの12年という計画期間では、計画の実効性の低下を招きかねない。また、市民を代表した議会の議決を12年に一度しか経ていないことになる。そこで、本計画においては、平成17年度から10年を見通し、平成26年度までを計画期間と定めることとする。

(2) ローリングスケジュール

- ①本計画の前期5か年（平成17～21年度）を実行計画とし、後期5か年（平成22～26年度）を展望計画とする。
- ②市長選挙を踏まえ、また、市政を取り巻く環境の変化に対応するため、4年ごと（平成20年）に調整計画を策定する（長期計画策定は8年ごと、下表参照）。

計画ローリングスケジュール



5 これまでの成果

I 第三期長期計画第二次調整計画の優先事業

(1) 高齢者福祉の推進

高齢者福祉においては、「自立支援・促進型福祉」の推進を掲げ、平成12年度から介護保険制度が施行されたことを契機に、次のように対応した。

平成12年4月に「高齢者福祉総合条例」を制定し、活力のある長寿社会を目標とした。また、特別養護老人ホーム「親の家」の開設を支援するなど施設整備をさらに進めるとともに、在宅サービスの充実を図り、ゴールドプラン21の目標値を達成しつつある。また、サービスの質の向上を図るため、「ケアマネジャー研修センター」の設置や第三者機関によるサービス評価を開始した。

平成15年には、介護保険制度が抱える問題点の改善策と制度改革の必要性を国に提言するなど、介護保険制度や公的介護のあり方について問題提起も継続して行ってきた。

(2) 子ども施策の推進一心・体、家族

子どもたちを、家庭や学校や地域において、心と体の両面でのびのびとはぐくんでいくため、次のように取り組んだ。

時代の状況の変化や多様化する保育ニーズに対応するため公立保育園改革を実施するとともに、「こどもテンミリオンハウスあおば」の開設や病後児保育事業などを実施した。

平成16年には「子育てSOS支援センター」を



市内全域で行われている家庭ごみの戸別収集

設置し、児童虐待防止や子育て支援ネットワーク構築を進めている。

また、「食の乱れ」が言われる中で、子どもの食の現況調査を実施し、啓発を行っている。

学校教育では、少人数指導・習熟度別指導などを充実するとともに、今までのセカンドスクールに加えて平成15年度より小学校4年生を対象としたプレセカンドスクールの試行を開始した。

完全学校週5日制への対応として、「土曜学校」を開始するとともに、「地域子ども館・あそべえ」を開設した。また、家族で自然とのふれあいを深められるよう、「親子棚田体験」「鳥取県家族ふれあい長期自然体験」などの家族ふれあい事業を実施している。

(3) 武蔵境のまちづくりの推進

玉川上水や仙川などの自然と調和した良好な住環境を考慮しつつ、JR中央線の連続立体交差化に合わせ武蔵境の整備に次のように取り組んだ。

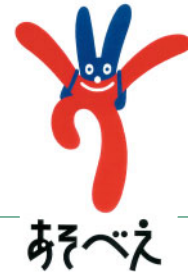
武蔵境駅周辺環境整備基本計画を策定し、JRの駅舎設計と連携して、駅舎に附属する連続施設の基本設計に市民とともに関わっている。また、まちの南北一体化を図るため、都市計画道路や区画道路などの整備を進めている。

農水省食糧倉庫跡地に建設する新公共施設については、平成15年に基本計画を策定し、現在、「知的創造拠点」として建設基本計画の策定とそれに続く基本設計の準備を進めている。

仙川を親水化する「仙川リメイク」は、桜堤団地建替え区域内の約450m(全体計画2.7km)が完了した。



オンラインスケートやスケートボードが楽しめるストリートスポーツ広場



(4) 吉祥寺新時代にむけて

新宿より西では最大の商業地として発展した吉祥寺が、良好な商業地として高い地位を維持し続けられるよう4つのゾーンごとに次のように整備を進めてきた。

- ①セントラル吉祥寺
 - ・平成13年度に地域情報コーナーを併設した商工会館を建設した。
 - ・サンロードのアーケード架け替えを支援した。
- ②イースト吉祥寺
 - ・吉祥寺シアター建設を進めている。
 - ・区画道路の整備などを実施している。
- ③ウエスト吉祥寺
 - ・道路をカラー舗装にするなどのグレードアップを進めている。
 - ・防災機能を持つ吉祥寺西公園を開設した。
- ④パーク吉祥寺
 - ・南口駅前交通広場を都市計画決定し、用地買収を進めている。
 - ・井の頭公園へのアクセス道路の整備を進めている。

また、これら4つのゾーンを有機的に結び、来訪者の回遊性を高める検討を進めている。

(5) 地域で取り組む環境施策と緑化の推進

これまで受け継いできた環境を守りはぐくみ、将来の世代に引き継ぐため、地域から取り組む地球環境保全施策を次のように推進した。

1) 環境・ごみ問題への取り組みの強化

武蔵野市役所地球温暖化対策実行計画を策定し、率先して温室効果ガス発生量の抑制に取り組んだ。また、住宅に太陽光発電設備を設置する市民への助成制度を創設した。

ごみ問題については、市民・事業者・行政の三者の協働による初めてのごみ減量キャンペーンの実施、回収システムの整備や事業所への排出抑制のための指導強化等を行い、平成15年10月には不

燃ごみの焼却を開始し、最終処分場の有効活用を図るとともに、家庭ごみ有料化を進めている。

2) 緑の保全と緑化の推進

公園の新設・拡充はもとより、緑化指導・接道部緑化の助成や苗木の配布などを実施した結果、平成6年に22.6%まで減少した緑被率が、平成12年には1.8%の増加(24.4%)に転じた。これは、民間も含めた市内全体の緑が増加したものと考えられる。

また、玉川上水、千川上水、仙川、グリーンパーク遊歩道等を整備し、水と緑のネットワークの形成を進めるとともに、地下水を活用したビオトープ^{*1}の整備を進めた。また、学校ビオトープについては、平成15年度中に市立小学校全12校中11校で設置が完了した。

平成13年度より「二俣尾・武蔵野市民の森^{*2}」と名づけた約3ヘクタールの青梅市内の森林を対象に、保全・整備活動や体験活動(土曜学校等)を実施し、環境学習の場として活用している。

*1 ビオトープ

「生息場所」という意味のドイツ語。多様な生物との共生の空間、小動物が生きられる環境の再現のため、池や水流を造り、草木を植え込み、自然に昆虫などが住めるようにする。

*2 二俣尾・武蔵野市民の森

荒廃しつつある多摩の森林を保全するとともに、森林資源を活用した様々な自然体験ができる山林を「二俣尾・武蔵野市民の森」として保全、活用を図っている。

II その他の主な成果

分野	年度	主な成果
健康・福祉	13年度	・知的障害者生活寮「やはたハウス」開設
	15年度	・知的障害者通所授産施設「ワークイン関前」開設 ・小児救急医療体制の基盤強化
	16年度	・痴呆性高齢者グループホーム開設
教育・文化	13年度	・「吉祥寺美術館」開館 ・桜野小学校体育館等の改築 ・武蔵野赤十字保育園増改築 ・小中学校全校の耐震診断を実施～13年度（14年度～耐震補強工事）
	14年度	・ストリートスポーツ広場の開設 ・安全監視員制度導入
	15年度	・武蔵野地域自由大学開学 ・茶室「松露庵」を開設 ・市立保育園「涼」環境創出の取り組み
	16年度	・西久保保育園の移転・改築、ありんこ保育園の認可化 ・大野田小学校校舎改築～17年3月完成予定
コミュニティ・市民生活・産業	13年度	・武蔵野商工会館開館 ・姉妹友好都市アンテナショップ「麦わら帽子」開店
	14年度	・コミュニティスタジオ「ハートらんど富士見」の設置 ・市民農園の新設（南町市民農園） ・東町防災広場の開設 ・つきまとい防止条例、生活安全条例の制定 ・コミュニティ条例施行
	15年度	・市民農園の新設（関前ふれあい市民農園） ・市立小中学校（18校）中、14校に災害対策用井戸設置～15年度現在
	16年度	・境南町防災広場の開設
環境・都市基盤	13年度	・ムーバス4号路線（三鷹駅北西循環）運行開始 ・パークアンドバスライド（ムーパーク）開設 ・粗大ごみシール制の導入 ・朝一番隊による清掃「吉祥寺朝一番隊」開始 ・自転車駐輪場の確保～13～15年度 ・人にやさしいみちづくり事業（宮前通り施工）
	14年度	・都市計画道路3・4・7号線（アジア大学通り）完成 ・都市計画道路3・4・16号線（吉祥寺通り）完成 ・人にやさしいみちづくり事業（宮本小路北・東十一小路 施工）
	15年度	・庁舎空調設備改修 ・ふれあい訪問収集・狭あい道路特別収集の開始 ・武蔵境駅共用サイクルの実験を開始 ・京王線吉祥寺駅下りエスカレーター設置 ・朝一番隊による清掃「三鷹・武蔵境朝一番隊」開始 ・人にやさしいみちづくり事業（宮本小路南・市道第105号線 施工）
	16年度	・敷地面積の最低限度導入 ・グリーンパーク緑地整備 ・境山野緑地の整備 ・市道16号線（文化会館通り）かたらいの道景観整備（電線類の地中化及び歩道拡幅） ～14～16年度 ・家庭ごみの有料化
行・財政	13年度	・新職員定数適正化計画の実施～12～16年度 ・情報公開条例・個人情報保護条例改正
	14年度	・機構改革の実施 ・行政管理（評価）システムの試行開始 ・目標管理制度の試行開始
	15年度	・財政援助出資団体との連結したバランスシートの作成 ・第三次職員定数適正化計画の策定 ・新人事制度基本方針の策定
	16年度	・財政援助出資団体指導検討委員会設置